

土崎神明社

土崎神明社は、皇室の祖先とされる太陽神である天照大神を祀っている。この神社で最も重要な例祭は、曳山と呼ばれる大型の木製曳山が街中を曳行されることで知られている。主な祭事は7月20日と21日に行われるが、さまざまな儀式や供物は5月から9月まで続く。この祭りは2016年にユネスコの無形文化遺産に登録された。

土崎神明社は、1620年に土崎の肝煎である川口惣治郎（生没年不詳）によって創建された。港の近くに祈りを捧げる場所がないことを懸念する地元の人々からの依頼を受け、川口は佐竹義宣(1570-1633)より神社を建てる許可を得、佐竹氏の前の大名の居城であった湊城の跡地に神社を建てた。